

英語初級学習者のための語彙力養成用CALL教材の開発

A CALL System for Teaching English Vocabulary to Japanese High School Students

桑原 市郎¹ 高橋 秀夫²

1. はじめに

平成25年度より完全実施される新しい『高等学校学習指導要領』では、「授業は英語で行うことを基本とする」と明記され、英語コミュニケーション能力養成を今まで以上に重視する姿勢を鮮明に打ち出している。しかし現状を考えると、とくに音声面の能力向上は容易ではない。週にわずか3～4時間の授業内で、教科書を中心として他の教員と歩調を合わせた指導を行い、文法や読解など大学入試や技能検定に耐えうる力もつけさせなければならない。とくに「リスニング」については、「効果的な学習方法はあまり考えられていない」（浅見他，2009）などの指摘が常にあり、あまり積極的に指導が行われていないのが実情である。

そこで我々は、このような状況を改善するための一助とすべく、千葉大学自然科学研究科、教育学研究科で独自に開発され、効果が繰り返し検証されてきた「三ラウンド・システム」理論に基づく、高校中級用聴解力養成用CALL教材First Step Abroad(以下、FS)を開発した(桑原・高橋, 2010)。これを使用して高校2年生を指導したところ、教材中の英文を使用した空所補充形式のリスニング問題で結果が平均43.4点から61.7点へ($t=13.36$, $p<.05$)、応用問題として実施した大学入試センター試験の英語リスニング問題(平成18年度, 一部略)で40.2点から48.0点へ($t=3.44$, $p<.05$)向上するなど、教材の有効性が確認された(桑原, 2011)。学習終了後に行ったアンケート調査の結果では、65%の生徒が「内容に興味を持ち」、88%の生徒が「Step 1, 2, 3 と進むにつれ聞けるようになった」と回答するなど、教材そのものは生徒からは概ね好評であった。しかし、「学習時間の不足」や「学習しなければならない語彙の多さ」を指摘する意見もいくつか寄せられ、教材に対して学習者の語彙が不足している場合は、学習時間が不足し、効果的に学習できない可能性が高いことも判明した。

一般的に語彙力は「四技能のいずれにも必要不可欠」（樋口, 2005）と指摘され、十分な語彙がなければリスニングを含め英語力全体を効果的に向上させることは難しい。聴解

¹ 千葉県立野田中央高等学校, 千葉大学言語教育センター委託研究生(平成20年度)

² 千葉大学言語教育センター

力養成教材（目標教材）を効果的に使用するには、語彙力が十分でない高校生など（以下、初級学習者）が、その教材で使用される語彙を事前に学習できる補助的な教材（語彙教材）が必要であると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、目標とするリスニング用CALL教材First Step Abroadを学習する前に、その教材で使用される語彙を事前に学習するための、補助的な語彙教材を開発することである。語彙の意味を確実に定着させ、目標教材の英文だけでなくその語彙を使用する他の英文の理解も容易になるような「応用力」も養成できる教材の開発を目指した。

3. 教材の開発

（1）指導語彙の選定

目標教材FSで使用される語句は404種類、延べで2,546語である。派生語はそれぞれ1種類と数えた。ここから、「中学校教科書で学習する語彙」「(英語由来の)カタカナ語」など初級学習者でも学習済と見なせる語彙（既習語彙）や「固有名詞」「問投詞」「数詞」などの語句、そしてカタカナで（一部または全体を）表記することもある語句（例：dial(動詞), host mother, sweet(形容詞)）などを除外すると280種類が残った。これを「学習語彙」と定義し、その内容をもとに28のトピックに分類した。

（2）用例

実際のコミュニケーションで語彙が使えるようになるためには、Nation(1990)らが指摘する「共に使われる語句」「文中での位置」「発音」などの「質的」指導も不可欠である。そのため、本研究では選定した語彙を学習するための用例を2種類作成し、音声と共に指導する形態とした。一つは学習語彙の意味が容易に想起できるような「基礎用例」で、語彙の意味定着を支援するものである。FSだけでなく様々な場面で使用できるように、一般的な内容で文法的にも易しい英文になるように配慮した。もう一つは「聴解用例」で、学習語彙を含みFSで実際に使用されている文や句を提示することとした。学習語彙が目標教材FSでどのように使用されているかを示し、FSの学習を容易にさせることを目的としている。

（3）語彙指導システム

学習語彙とその用例は、千葉大学で開発され、高い効果が検証されている語彙力指導システム（竹蓋, 1999）およびCALL教材開発用ソフトウェア（高橋, 2010）を使用して教材化した。同システムは4段階（動機づけ、導入、展開、まとめ）の学習の流れとともに、静止画、音声、スペリング、意味の提示タイミングをパソコンで厳密に制御し、語彙と用

例の音形、意味の記憶、定着の効果を高めるようにしたもので、「提示された語彙の意味を問い、正解を提示する」という伝統的語彙指導と比較して、学習5週間後で、約3倍の定着率があることが検証されている(竹蓋他, 2005)。また、教材開発用ソフトウェア(オーサリングシステム)は、教材開発者が特別な技術や知識なしに、Excelや各種エディターなど一般的なソフトウェアを使ってソフトウェア開発ができることがその特長である。

4. 開発された教材

(1) 開発された教材の概要

FSの語彙をあらかじめ学習するということから、開発教材名はStep-Up Vocabulary for First Step Abroad (以下、VFS)とした。学習語彙はトピック毎に10語ずつ分類され、2教材で28トピック(表1)、計280種類の語彙(付表1)、560の用例(付表2)を学習できる。作成された教材は、ブラウザー(インターネットエクスプローラー)の標準機能を使用しており、特別なソフトウェアをパソコンに追加する必要がない。CD-ROMやUSBメモリを使用したOffline形態でも、インターネットを介したOnline形態でも学習可能である。

表1 分類された学習語彙の内容

教材1		教材2	
1) 空の旅	8) 食材, 調理	1) 旅行	8) コンピュータ
2) 道案内	9) 動作	2) 食事	9) 移動, 変化
3) 郵便	10) ファッション	3) 電話	10) 状況, 状態
4) 学校, 勉強	11) 意志, 思考	4) テレビ, 雑誌	11) 調査
5) 日常生活	12) 時, 期間	5) 病気	12) 物の性質
6) 天気予報	13) 程度	6) お金	13) 対応
7) 体	14) 性格, 性質	7) 家族, 人	14) その他の名詞

(2) 学習手順

起動画面(図1)をクリックすると、トピック選択画面(図2)が表示される。学習者が教材に取り組みやすいように、学習するトピックの順番ができるだけ具体的なものから抽象的なものになるよう14のトピックを配置した。トピックを選択すると、学習ステップを選択する画面(図3)に移る。学習ステップ(STEP)は全部で八つあり、STEP1は「動機づけ」、2, 3が「導入」、4, 5, 6が「展開」、7, 8が「まとめ」の段階となる。

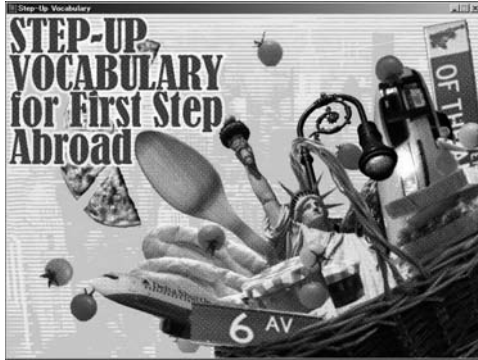


図1 教材起動画面



図2 トピック選択画面

STEP 1 は「イメージによる導入」で、各セットの語彙にふさわしい写真を提示し、使用される場面を想像させる。STARTボタンを押すと音声が発生され、学習者はそれを聞きながらどのくらい既知の語句があるかを確認するなど、学習の準備をする（図4）。



図3 学習ステップ選択画面

図4 STEP1学習画面
(イメージによる導入)

STEP 2 は「一覧表による学習」で、学習語彙を文字や音声で導入する。語彙とその和訳を一覧で提示し、学習者は語彙をクリックしてその発音を確認する。語彙の並び順は、乱数機能により、学習するたびに変わるようになっている（図5）。

STEP 3 は「短い用例による学習」（図6）で、学習語彙がイラストの下にその意味と共に表示される。用例は二つ提示され、「基礎用例」が画面中央に、「聴解用例」が下部に表示される。用例をクリックすると音声流れ、学習者が意味を思い浮かべた後に少し遅れてその意味が表示されるようにタイミングを調整し、定着の効果を高めるようにした。

先にも述べたが、聴解用例はFSの学習に役立てることを目的とし、FS中の英文や句を原則そのまま使用している。しかし、聴解用例だけでは語彙の定着や他教材への応用が危ぶまれる。たとえば図6の聴解用例 Skies will be clear tonight in the Southwest. では、

tonight やthe Southwest を知っていても、学習語彙 clear の意味を推測することは困難である。「基礎用例」が必要となるのはそのためである。基礎用例は、仮に学習語彙の意味がわからなくても、できるだけ他の語句から類推できるように作成した。図6の基礎用例 a clear blue sky in the fall では、fall や blue sky から、学習語彙の「晴れている」という意味を推測するのを手助けできる可能性が高い。意味が想起しやすく文法的にも平易で短い用例により、語彙の定着を支援するのがその目的である。



図5 STEP 2 学習画面
(一覧表による学習)



図6 STEP 3 学習画面
(短い用例による学習)

STEP 4 では、学習語彙の意味を確認させる（図7）。まず学習語彙の綴りを見て和訳を考えさせ、クリックして発音と日本語訳を確認させる。音声を聞いて、語彙の意味を思い浮かべ、それが正しいかどうか確認できるように、日本語訳は少し遅れて表示される。

STEP 5 では、学習語彙の綴りの確認を行う（図8）。学習者は和訳を見て、対応する語彙が何かを考える。和訳の部分をクリックすると、音声流れ、少し遅れて学習語彙が表示される。音声を聞いてさらに考える時間を与えるため、英語は少し遅れて表示される。

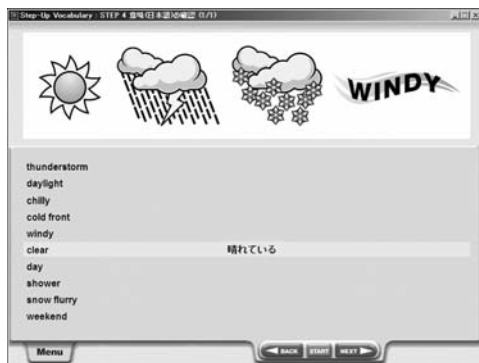


図7 STEP 4 学習画面
(語彙の意味の確認)



図8 STEP 5 学習画面
(綴りの確認)

STEP 6 は「短い用例による復習」で、画面に表示される和訳の青字部分や空所つきの用例から空所にあてはまる語彙を考えさせ、クリックして音声を確認させる(図9)。音声は流れて文字が表示されるまで少し間があり、聞き取った用例から空所に適切な語彙が何かを答えるという聞き取りの訓練も同時に行いながら、語彙や用例の定着を図る。

STEP 7 は「一覧表による復習」で、STEP 2 と同様に語彙と和訳の一覧表が提示される。学習者は文字を見ながら復習し、クリックして音声を再確認する(図10)。



図9 STEP 6 学習画面
(短い用例による復習)



図10 STEP 7 学習画面
(一覧表による復習)

最後のSTEP 8 は「イメージによる定着」である(図11)。STEP 1 で提示した写真を再び提示して、学習した語彙が使われる状況を再度考えさせる。STARTボタンを押すと学習語彙の音声は2秒おきに連続して流れるので、次の音声が再生されるまでに学習者は意味をすぐに思い出すように努力する。瞬時にその意味が思い浮かべられれば、聞き取りに使える語彙力を養成することができると言える。



図11 STEP 8 学習画面
(イメージによる定着)

5. 教育効果の測定

開発した教材は、千葉県内の公立高校2年生(40名)を対象に2種類の指導を行って、その教育効果を測定した。最初の指導(指導①)では開発した教材の語彙指導効果を確認し、次の指導(指導②)では「基礎用例」「聴解用例」という用例の違いによる学習効果の差を調査した。共に、指導は通常の授業の一環としてコンピュータ教室で行い、授業時

間は1回50分、そのうち教材学習時間は約30分であった。



指導①では、教材内の「天気予報」「病気」という二つのトピックを使い、全員に同じ20の語彙、40の用例を学習させた。指導とプリテスト、ポストテストについては、時間割や特別日課等に従い、5回に分けて表2のようなスケジュールで指導を行った。ポストテストは無予告でそれぞれ2回実施し、学習効果の持続を確認した。

表2 指導①スケジュール

	(10分)	(30分)	(10分)
第1回 (4/15)	(コンピュータ教室使用ガイダンス)		「天気予報」 プリテスト
第2回 (4/18)	(教材学習方法説明)	「天気予報」語彙学習	「天気予報」 ポストテスト(1)
第3回 (4/22)	「病気」 プリテスト	「病気」語彙学習	「天気予報」 ポストテスト(2)
第4回 (4/25)	「病気」 ポストテスト(1)	(他の指導)	
第5回 (5/2)	「病気」 ポストテスト(2)	(他の指導)	

プリテストとポストテストはそれぞれ同一問題で、1) 発音された語彙の意味を答える問題10題と、2) 音声を使った「聴解用例」の英文空所補充問題5題、および日本語空所補充問題5題である。1) は語彙自体がどの程度定着したかを、2) は英文の理解度を測定しようとするものである。空所補充問題の例を表3に示したが、今回の学習者にとってこのような問題は、その英文を学習していたとしてもそれほど平易な設問ではない。

表3 音声を使った「聴解用例」の空所補充問題(例)

音声を使った英文空所補充問題(5題) 例)  That's \$20.75 for the ().
音声を使った日本語空所補充問題(5題) 例) この()のチェックのセーターは()です 【英語】  This brown checkered sweater is a medium.

テスト結果は、「天気予報」では、学習直後のポストテストで正解率が95%となり、4日後のポストテストでも88%という結果が測定された。また、「病気」に関する語彙も、3日後で77%、10日後で82%という同様に高い結果が得られた(表4)。これらの結果から、指導1週間後で平均85%程度の定着度があると推測され(図12★印)、今回開発した語彙教材の有効性が確認できたと考える(図12)。

表 4 指導① テスト得点集計結果 (%)

	プリテスト	ポストテスト (1)	ポストテスト (2)
天気予報	42.7	95.0 (学習直後)	88.1 (4日後)
病気	25.9	77.3 (3日後)	82.1 (10日後)

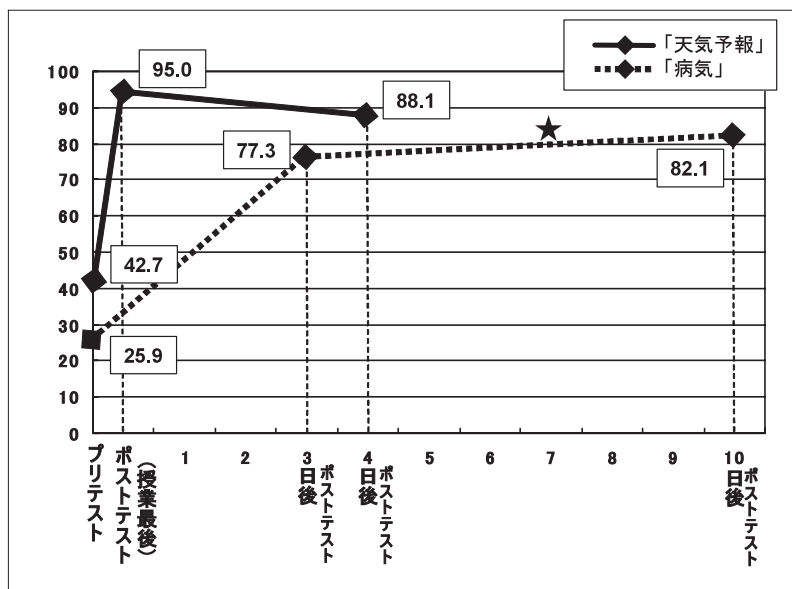


図12 指導①テスト結果グラフ (正解率)

なお、「病気」に関する語彙のテスト結果について、若干だが後に実施した結果の方が良いという、普通では考えにくい結果になってしまった。原因として、二つのことが推測される。一つは偶発的なもので、最初のポストテストが「体育」の直後で、暑くて生徒がテストに集中できなかったというものである。もう一つは、「天気予報」の学習でテストを何度も行ったため、勘の良い生徒が、同様にテストを実施すると予想できたことである。後者に関しては、今後は難易度が同程度の別問題を使用するなど、より厳密に効果測定を行う方法を採用したい。

指導②の目的は、学習する用例によって効果に差が出るかどうかを調査することであった。指導語彙は特定のトピックが結果に影響を与えないように2セット(20語)を再編集した。指導は、生徒をこれまでの英語の成績から英語力で等質と考えられる2グループに分け、授業を2回実施し、1回の授業で各グループが学習するのは「基礎用例」もしくは「聴解用例」のどちらか片方となるようにした。指導1回目と2回目では学習する用例をグループで入れ替え、所属するグループによって学習に偏りが生じないようにした。指導①と②で異なるのは学習する用例の種類が限定されていることだけで、指導手順に差はない。

指導効果の測定に関しては、指導①で指導システムや教材自体の有効性は確認できているので、指導②ではポストテストのみを実施した。形式は前回の測定と同様に、1) 発音された語彙の意味を答える問題10題と、2) 音声を使った「聴解用例」の英文空所補充問題5題、および日本語空所補充問題5題であった。指導とポストテストについては、それぞれ最初に授業を行い、次の時間の最初に無予告でポストテストを行った(表5)。今回の学習者にとっては2)の空所補充問題に答えるには語彙の学習だけでは不十分で、当該用例(英文)を前もって学習していなければ解答は容易ではないと予想された。

表5 指導②スケジュール

	(10分)	(30分)	(10分)
第1回 (5/9)	(他の指導)	語彙セット「1」学習	(諸連絡)
第2回 (5/16)	セット「1」 ポストテスト	語彙セット「2」学習	(諸連絡)
第3回 (5/18)	セット「2」 ポストテスト	(他の指導)	

ポストテストはグループ別、テスト問題の種類別に得点を集計し(表6, 図13)、分散分析を行った(表7)。その結果、1) 要因A(指導する用例の違い)はテスト結果の合計に有意差は与えない、2) 要因B(語彙の意味を答えるテストと、空所補充テストの得点間)には、有意差がある、3) 要因A B間には交互作用がある、つまり指導する用例の種類が語彙と空所補充の得点に異なった影響を与えるという結果となった。

表6 指導②ポストテスト 得点集計結果(%)

		(要因B)		合計
		語彙の意味 テスト得点	空所補充 テスト得点	
(要因A)	基礎用例 学習グループ	85.0	67.1	76.0
	聴解用例 学習グループ	82.2	79.2	80.7
平均		83.6	73.1	

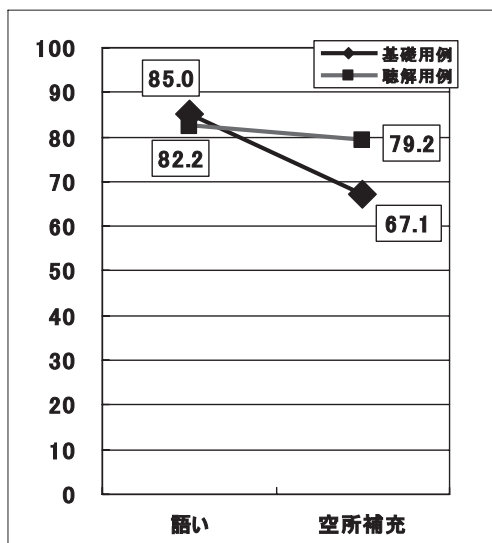


図13 指導②テスト 結果グラフ (正解率)

表7 指導②ポストテスト 分散分析結果

要因A	F= 3.10	n.s.
要因B	F=15.76*	p<.01
要因A B	F= 7.91*	p<.01

この結果は一見すると、聴解用例を教えればその用例を使ったテストの得点が高いという、きわめて当たり前の結果に思われるかもしれない。しかし我々は、その部分ではなく、基礎用例を学習したグループの、空所補充問題における67.1点という得点そのものの高さに着目した。これは、今までに一度も聞いたことがない目標教材FSの用例を使用した空所補充問題、つまり「応用問題」であるにもかかわらず、67%もの正答率を得ていることを示すものである。先に記したとおり、教材を使用した高校2年生の英語レベルは決して高いものではなく、設問(表3)は決して解答が容易ではない。そのような問題における67%の正答率は、日常彼らを指導している教員にとっても驚くべき高い得点であった。指導①では、基礎用例と聴解用例の両方を学習させて、平均して指導1週間後でも85点という高得点が得られたが(図12★印)、これは聴解用例による学習量(指導②における79.2点)と基礎用例学習による応用力(指導②における67.1点)の相乗効果によって得られたと推測される。

このことから、指導②の結果、1) 聴解用例による学習は目標教材FSの学習を容易にする効果がある、2) 基礎用例による学習は単語やその意味の定着だけでなく、その使われ方に関する応用力の養成に効果があるという結果が得られたと判断した。

6. 考察と展望

本研究の目的は、リスニング用CALL教材(目標教材)First Step Abroadを学習する前に、初級学習者(高校生初中級レベル)がその教材で使用される語彙を事前に学習できる補助的な語彙教材を開発することであった。今回開発した教材VFSは、2種類の用例を学習することによって、目標教材の学習を容易にするだけでなく、語彙力の養成一般に使用できることも明らかになった。

今回の研究ではVFSの一部(40語, 80用例)を4回の指導(プリテスト, ポストテストを除く)で学習させたが、今後は1年強をかけて語彙教材VFS(28セット)と聴解力養成用教材FS(5ユニット)を併用して全て学習させ、FS単独で学習させた時よりも学習効果を上げたいと考えている。その指導スケジュール概要を表8に示した。定期考査を5回実施する高等学校で週に2時間の指導を想定し、定期考査や学校行事等もふまえて、実際に行われるであろう授業時間数をもとに計画を立てたものである。特徴は、1)学習した語彙をすぐに忘れないように、VFSは4セット学習するごとに2時間の復習機会を設ける、2)FSは各ユニット5~6回の授業で学習を終了するものとする、3)学習開始時はVFSを中心に学習させるが、徐々にFSの学習量を増やし、最後はFSのみの学習となる、などである。VFSで学習した語彙は、復習機会で再確認するだけでなくFS学習で繰り返し提示されるので、確実に定着が期待でき、VFSの学習が進むにつれて既知の語彙が増えていくので、FS学習のペースが向上すると考えて作成した。このような計画をもとに、実践的指導から実践的指導へつなげていくのが我々教師の重要な務めであると考えている。

表8 VFS, FS学習スケジュール概要(例)

	1年目					2年目	
	1学期		2学期		3学期	1学期	
	前半 (8回)	後半 (10回)	前半 (10回)	後半 (12回)	(14回)	前半 (8回)	後半 (10回)
FS			Unit 1 (4)	Unit 1 (1) Unit 2 (3)	Unit 2 (2) Unit 3 (4)	Unit 3 (2) Unit 4 (2)	Unit 4 (4) Unit 5 (6)
VFS	ガイダンス (2) 学習 (4) 復習 (2)	学習 (4) 復習 (2) 学習 (4)	復習 (2) 学習 (4)	復習 (2) 学習 (4) 復習 (2)	学習 (4) 復習 (2) 学習 (2)	学習 (2) 復習 (2)	

(カッコ付き数字は学習時間を表す)

千葉大学で開発された聴解力養成用教材には、補助的語彙教材があれば高校生中上級レベルの学習者でも使用できると考えられるものが他にも複数ある。今回の研究をふまえて、それらの聴解力養成用教材と連携する語彙教材をさらに開発し、学習者の音声コミュニケーション能力の向上に貢献したいと考える。

7. 参考文献

浅見道明他, 「発音指導と速読指導がリスニング能力に与える影響」, 『関東甲信越英語教

- 育学会 第33回埼玉研究大会発表要項』, 関東甲信越英語教育学会, 2009, p.28.
- 樋口忠彦, 『これからの小学校英語教育: 理論と実践』, 研究社, 2005, p.262.
- 上岡光雄, 「英単語は学習された後、どのように忘れられてゆくか」, 『英語教育』第31巻第8号, 大修館書店, 1982, pp. 42-47.
- 清川英男, 『英語教育研究入門』, 大修館書店, 1990.
- 桑原市郎, 「聴解力重点指導を通して読解力・作文力を向上させる試み－三ラウンド・システムを活用して－」, 『平成18・19年度高等学校教科研究員研究報告書』, 千葉県教育庁教育指導部振興課, 2008.
- 桑原市郎・高橋秀夫, 「三ラウンド・システムに基づいた高校生向け英語リスニングCALL教材の開発」, 『言語文化論叢』第4号, 千葉大学言語教育センター, 2010, pp. 33-44.
- 桑原市郎, 「三ラウンド・システムに基づいた英語指導実践とリスニングCALL教材の開発－聴解力重点指導によって英語力を総合的に向上させる試み－」, 『英語部会誌』第46号, 千葉県高等学校教育研究会英語部会, 2010, pp. 29-40.
- 桑原市郎, 「三ラウンド・システムに基づく高校中級向け英語リスニング教材First Step Abroadを使用したCALL授業の実践とその効果」, 『英語部会誌』第47号, 千葉県高等学校教育研究会英語部会, 2011, pp. 14-21.
- 文部科学省, 『高等学校学習指導要領 平成21年3月告示』, 文部科学省, 2009.
- Nation, I.S.P, *Teaching and Learning Vocabulary*, Heinle & Heinle Publishers, 1990.
- Nation, I.S.P, *Learning Vocabulary in Another Language*, Cambridge University Press, 2001.
- 高橋秀夫, 「Windows版英語語彙学習用ソフトウェアの開発」, 『言語文化論叢』第6号, 千葉大学外国語センター, 1999, pp.115-129.
- 高橋秀夫, 「米国大学新聞における語彙」, 『言語文化論叢』第11号, 千葉大学外国語センター, 2002, pp.1-13.
- 高橋秀夫, 『統合型英語Online CALL システム－社会のニーズに応える英語コミュニケーション能力を養成するための英語Web CALLシステムの開発』, 千葉大学言語教育センター, 2010.
- 竹蓋順子, 「コミュニケーション能力の養成に寄与する語彙指導」, *Language Laboratory*, No.33, 1999, pp. 97-116.
- 竹蓋幸生, 『ヒアリングの指導システム』, 研究社出版, 東京, 1989.
- 竹蓋幸生, 『英語教育の科学』, アルク, 東京, 1997.
- 竹蓋幸生, 水光雅則編, 『これからの大学英語教育』, 岩波書店, 東京, 2005.

付表1 28セットに分類された学習語彙

【教材1】

空の旅

arrival record
arrive
captain
crew
flight
non-stop
seatbelt sign
seat
ticket
turbulence

道案内

address
avenue
corner
district
located
map
north
right
south
street sign

郵便

package
parcel
postal insurance
postcard
pound
priority
regular
stamp
weigh
per

学校, 勉強

campus
dorm
elementary school
follow
homecoming
lesson
stay up late
diameter
species
structure

日常生活

job
bathroom
electricity
key
restroom
hobby
fan
stuffed toy
transit map
fridge

天気予報

chilly
clear
cold front
day
daylight
shower
snow flurry
thunderstorm
weekend
windy

体

allergy
back
blood type
chest
condition
fingerprint
finger
flu
overtired
rest

食材, 調理

dice
hamburger
herb
meat
minced
mixed
onion
potato
spice
specialty

動作

spell
hang out
lost
be able to
calm down
have
choose
put up
surprise
arrange

ファッション

blackish
brown
checkered
dressed up
fasten
large
medium
pattern
try on
size

意志, 思考

believe
come up with
deserve
estimate
expect
guess
let
need
opinion
wish

時, 期間

current
expire
holiday
in a while
spend
throughout
tonight
while
expiration date
right away

程度

big deal
at least
basically
entirely
mainly
mostly
pretty
probably
slight
for short

性格, 性質

cautious
earnest
experienced
knowledgeable
organized
personality
unique
weird
giant
huge

【教材 2】

旅行

bellhop
camping trip
check in
conciierge
sightseeing
stay
tourism
unlimited ride ticket
historical
memory

食事

beef burger
combo
cook
dish
drink
French fries
home-cooked
meal
order
to go

電話

area code
country code
customer service
domestic
international
local time
make a call
notify
phone
talk to

テレビ, 雑誌

comedy show
comic
detail
detective story
issue
program
publish
series
star
subtitle

病気

catch
degree
fever
headache
liquid
medicine
office
patient
problem
serious

お金

balance
bill
change
come to
exchange
pay
price
save
steal
souvenir

家族, 人

anybody
birth date
couple
Dad
daughter
husband
last name
myself
parent
wedding reception

コンピュータ

enter
information
log on
message
online
PIN number
set up
type
under suspension
website

移動, 変化

come back
come in
get inside
illuminate
forward
bring in
lift up
remain
cancel
go out

状況, 状態

as long as
correctly
exactly
hopefully
on behalf of
securely
with the help of
used to
freaky
perfect

調査

analysis
discover
hear of
indicate
look into
make sure
notice
police
purpose
true

物の性質

common
enjoyable
everlasting
lots of
normal
pleasant
ready
salty
typical
various

対応

affect
attend to
offer
refrain from
set
suspend
take a look at
watch out
help out
else

その他の名詞

score
block
back
leaf
nature
palm
trunk
stuff
trouble
reality

付表2 学習語彙と学習用例 (一部)

(トピック「学校, 勉強」, 2用例のうち上が基礎用例, 下が聴解用例)

campus [(大学などの)構内, キャンパス]

The university has a large campus.
I've seen students in pajamas on campus.

その大学のキャンパスは広い
パジャマを着ている学生を構内で見かけたことがあります

dorm [学生寮]

Many college students live in a dorm.
He lives in a dorm now.

多くの大学生が寮で暮らしている
彼は今、学生寮に住んでいる

elementary school [小学校]

Children go to elementary school for six years.
Some elementary schools have Pajama Day.

子供は6年間小学校に通う
いくつかの小学校には、パジャマ登校の日がある

follow [~についていく]

My dog follows me around the house.
I have trouble following the class.

私の犬は家で私のあとをついて回る
授業について行くのに苦労している

homecoming [学園祭, 卒業生招待のイベント]

Homecoming is a big event for high school teens.
We're going to play at the homecoming.

学園祭は10代の高校生にとって一大イベントだ
私たちは学園祭で演奏する予定です

lesson [授業]

We have only two English lessons a week.
Do you understand the lessons?

週にたった2回しか英語の授業がない
授業は理解していますか

stay up late [夜更かしする]

I stayed up late studying math.
I can't stay up late tonight.

数学を勉強して夜更かしした
今晚私は夜更かしすることができない

diameter [直径]

The diameter of the coin is 1 inch.
thirty feet in diameter

この貨幣の直径は1インチです
直径 30 フィート

species [種(しゆ), 種類]

Darwin wrote "the Origin of Species."
an entirely new species

ダーウィンは「種の起源」を書いた
全くの新種

structure [構造]

I like the modern structure of the school.
The structure of this palm is very unique.

この校舎の現代的な構造が好きだ
このヤシの木の構造はとても珍しい